第 10 回「高村・宮中塾」レジメ
―　テーマ「科学的社会主義とは何か②」　―

日　時：2023 年 12 月 17 日(日)　10:00～12:00
場　所：広島県労学協事務所＋Web(816 6029 1088)

テーマⅣ　人間解放論

1) 人民主権論

○ルソーは、民主共和制には「全体意志による民主共和制」と「一般意志(真にあるべき意思)による民主共和制」とがあり、全体意志が一般意志に発展したとき、人民主権の民主共和制が実現すると考えた。
○マルクスはルソーに学び、普通選挙権を「解放の用具に転化」(全集⑲P.235)するというが、それには一般意志形成の「導き手」(「社会契約論」P.61)が必要。
○日本共産党は、人民の統一戦線の結成をつうじて、一般意思を形成する「導き手」となり、統一戦線は人民主権の民主共和制である社会主義へと前進する。

2) アソシエーション論

○マルクスは、未来社会を「自由で平等な生産者のアソシエーション」(全集⑯P.194)という、自由な人々の真の共同体としてとらえた。
○すなわち、「自由と平等」という人間の本質を、疎外から全面的に開放する人間解放の社会である。
○日本共産党は、それを受け「真に平等で自由な人間関係からなる共同社会」という理念を掲げ、人間を疎外から解放して、すべての人間を「最高の存在」とする。

テーマⅤ　科学的社会主義とは何か

1) 科学的社会主義は、真のヒューマニズムの未来社会を実現する学説

○マルクスは「共産主義は成就されたナチュラリズムとしてヒューマニズム」(全集 40P.457)という。
○つまりマルクスは、社会主義・共産主義とは、「人間による、また人間のための人間的本質の現実的獲得」(同)として、人間の本質を解放する「成就されたナチュラリズム」の真のヒューマニズムの社会ととらえた。
○「意志の概念」(「小論理学」下 P.130)である一般意志は、未来の真理であるがゆえに、必ず人民の多数の意志に転化し、真のヒューマニズムの未来社会を実現する。
○一般意志は、人民の真にあるべき意思を示すものとして、「真理は必ず勝利する」

2) 科学的社会主義は、人間を疎外から回復し、人間を最高の存在にする人間解放という真理を実現する

○人間解放とは、「最高の共同性は最高の自由」を実現する社会。
○すなわち、社会主義とは、統一戦線勢力が権力をにぎって、生産手段を社会化し、搾取と階級をなくして平等な「最高の共同性」となり、「最高の共同性」は自ら生産し、生産物を「必要に応じて」(全集⑲P.21)すべての人に自由に分配して、「最高の自由」にする、生産と分配を中心とする「自由と平等」の社会。
○「最高の共同性は最高の自由である」とは、「自由で平等な生産者のアソシエーション」であり、言いかえると「真に平等で自由な人間関係からなる共同社会」である。

参考資料①

ドイツの理論がラディカルであるということ、したがってそれが実践的エネルギーをもつことの明らかな証拠は、それが宗教の決定的な積極的な揚棄から出発したことである。宗教の批判は、人間が人間にとっての最高の存在であるという教説でおわる。したがって、人間をいやしめられ、隷属させられ、見すてられ、軽蔑された存在にしておくようないっさいの諸関係をくつがえせという、(中略)至上命令をもっておわるのである。(全集①P.422)

****

それにしても、これは、労働者階級が社会的主動性を発揮する能力をもった唯一の階級であることが、富んだ資本家だけを除いて、パリの中間階級の大多数―小店主、手工業、商人―によってさえ、公然と承認された最初の革命であった。

(「フランスにおける内乱」全集⑰P.320)

****

人間的自己疎外としての私的所有のポジティブな廃棄、したがってまた人間による、また人間のための人間的本質の現実的獲得としての共産主義。したがって、社会的すなわち人間的な人間としての人間の、意識的に、かつ従来の発展のまったき豊かさの内部でなされた、自身にたいする完全な還帰としての共産主義。この共産主義は成就されたナチュラリズムとしてヒューマニズムに等しく、成就されたヒューマニズムとしてナチュラリズムに等しく、人間と自然との、また人間と人間とのあいだの相克の真の解消、現存と本質とのあいだの、対象化と自己確証とのあいだの、自由と必然とのあいだの、個と類とのあいだの、抗争の真の解消である。

(「経済学・哲学草稿」全集 40 P.457)

****

各構成員の身体と財産を、共同の力のすべてをあげて守り保護するような、結合の一形式を見出すこと。そしてそれによって各人が、すべての人々と結びつきながら、しかも自分自身にしか服従せず、以前と同じように自由であること。これこそ根本的な問題であり、社会契約がそれに解決を与える。(「社会契約論」P.29)

****

だからわたしはいう、主権とは一般意志の行使にほかならぬのだから、これを譲りわたすことは決してできない、と。またいう、主権者とは集合的存在にほかならないから、それはこの集合的存在そのものによってしか代表されえない、と。権力は譲りわたすこともできよう、しかし、意志はそうはできない。

(同上 P.42)

****

一般意志は、つねに正しいが、それを導く判断は、つねに啓蒙されているわけではない。一般意志に、対象をあるがままの姿で、時には、一般意志に見えるべき姿で見させ、それが求める正しい路をしめし、個別意志の誘惑からそれを守り、その眼に所と時をよく見させ、目前のはっきりした利益の魅力とはるかで見えぬわざわいの危険とを比較計量させなければならない。個人は、幸福はわかるが、これをしりぞける。公衆は、幸福を欲するが、これをみとめえない。双方ともにひとしく導き手が必要なのである。個人については、その意志を理性に一致させるように強制しなければならない。公衆については、それが欲するところを教えてやらなければならない。そうすれば、公衆を啓蒙した結果、社会体の中での悟性と意志の一致が生まれ、それから、諸部分の正確な協力、さらに、全体の最大の力という結果が生まれる。この点からこそ、立法者の必要が出てくるのである。

(同上 P.61)

****

ジャコバン党憲法における権利宣言

第１条　社会の目的は共同の幸福である。政府は、人にその自然で消滅することのない自然権を保障するために設けられる。

第 25 条　主権は、人民に存する。それは単一かつ不可分であり、消滅することがなく、かつ譲渡することができない。

****

マルクスは結婚する時期のいわゆる「クロイツナハ・ノート」(1843 夏)でルソーの「社会契約論」からの詳細な抜き書きをおこなっている。アソシエーションの用例をたどってマルクスの文献をあたっていくと、最初に出てくるのは意外なことに、19 世紀前半のイギリスやフランスの社会主義者たちや労働者アソシエーション運動にかかわってのものではなく、ルソーの「社会契約論」(1762 年)からの抜き書きなのである。注目すべきは、ルソーがそこで国家ないし「政治体(corpspolitique)」を「アソシアシオン」組織として構成しようとしていることである。

(田畑稔著　「マルクスとアソシエーション」増補新版 P.51)

****

ドイツ人民は、この主権を国民議会の選挙において行使した。

国民議会の第一の行為は、ドイツ人民のこの主権を、声高らかに、公然と宣言することであるべきだった。

その第二の行為は、人民主権にもとづいてドイツ憲法を作成し、人民主権の原理に反するもののすべてを、ドイツに事実上現存する状態のうちから除去することであるべきだった。

その全会期をつうじて国民議会を、あらゆる反動の企てをうちやぶり、国民議会の立っている革命的基盤を維持し、革命の成果である人民主権をあらゆる侵害から守るために、必要な方策をとるべきであった。

(「フランクフルト議会」全集⑤P.12)

参考資料②

「七四年憲法体制」における民主化の徹底は、生産力の発展にどのように影響したのでしょうか。一九七〇年代のユーゴ経済は、一方では平均して約六パーセント弱の経済成長率を維持しましたが、他方でこの間投資と消費の合計である総支出は総生産(所得)をたえず七パーセント上回り続け、そのため通貨を増発し、外国からの借款に頼らざるをえませんでした。

岩田氏が、その原因を労働者のなかの生産者性と消費者性の矛盾としてとらえているのは卓見だと思います。

例えば、「ある連合労働組織で一〇〇万ディナールの所得をいかに投資と個人所得に分配すべきか、が討論されている」(「凡人たちの社会主義」岩田昌征著 P.42)とかていしてみましょう。その場合、、「技術革新を重視すれば、投資七〇万ディナールと消費三〇万ディナール」(同)となり、「生活充実を重視すれば、投資三〇万ディナールと消費七〇万ディナール」(同)となります。

しかし「協議経済」のもとで、この違いはいわば生産者か消費者かの立場の違いですから、協議しても合意に達することは容易ではありません。そこで「もしも消費七〇万ディナールと投資七〇万ディナールの合計一四〇万ディナールを、自己資金一〇〇万ディナールのほかに借入れ金四〇万ディナールを利用してファイナンスできるならば。、短時間で人々は合意できる」(同 P.43)ことになります。(中略)

自主管理では、労働者集団と労働者評議会が意志決定をし、それを企業長以下の経営会議が執行することになりますが、経済的損失が生じたとき、誰が責任をとるかは明確にされていなかったのです。(中略)

結局ユーゴでは、「社会的所有」における人と人との関係(生産関係)は重視されながら、人と物(生産力)との関係が重視されなかったために、労働者のもつ生産者性と消費者性の矛盾により、インフレ経済への道を歩まざるをえなくなったということができます。(「21 世紀の科学的社会主義を考える」P.378～380)

****

第 11 回党大会
党の発展の新段階と党建設の課題

いま、全党にもとめられているのは、あたらしい歴的段階に即応しうる党の建設―平和・中立の統一戦線を結成し、国民の多数の指示を統一戦線がわに結集して、国民大衆とともに民主連合政府を樹立するという、七〇年代に課せられたこの歴史的事業をいかなる情勢の激動のもとでも確固としてやりとげる力をもった党の建設である。

(中略)

(4)真のプロレタリア的ヒューマニズムにたった党風を、党生活と党活動の全分野にわたって確立し、社会生活、政治生活のなかで、道徳的にも広範な国民の信頼をえるようにすること。

ここで問題にしているのは、それ自身の土台の上に発展した共産主義社会ではなくて、反対にいまようやく資本主義社会から生まれたばかりの共産主義社会である。したがって、この共産主義社会は、あらゆる点で、経済的にも道徳的にも精神的にも、その共産主義社会が生まれでてきた母胎たる旧社会の母斑をまだおびている。したがって、個個の生産者は、彼が社会にあたえたのと正確に同じだけのものを―控除したうえで―返してもらう。個々の生産者が社会にあたえたものは、彼の個人的労働量である。たとえば、社会的労働日は個人的労働時間の総和からなり、個々の生産者の個人的労働時間は、社会的労働日のうちの彼の給付部分、すなわち社会的労働日のうちの彼の持ち分である。個々の生産者はこれこれの労働(共同のファンドのための彼の労働分を控除したうえで)を給付したという証明書を社会から受け取り、この証明書をもって消費手段の社会的貯蔵のうちから等しい量の労働が費やされた消費手段を引きだす。個々の生産者は自分が一つのかたちで社会にあたえたものと同じ労働量を別のかたちで返してもらうのである。(中略)

共産主義社会のより高度の段階で、すなわち個人が分業に奴隷的に従属することがなくなり、それとともに精神労働と肉体労働との対立がなくなったのち、労働がたんに生活のための手段であるだけでなく、労働そのものが第一の生命欲求となったのち、個人の全面的な発展にともなって、またその生産力も増大し、協同的富のあらゆる泉がいっそう豊かに湧きでるようになったのち―そのときはじめてブルジョア的権利の狭い視界を完全に踏みこえることができ、社会はその旗の上にこう書くことができる―各人はその能力におうじて、各人にはその必要に応じて！(中略)

いわゆる分配のことで大さわぎをしてそれに主要な力点をおいたのは、全体として誤りであった。いつの時代にも消費手段の分配は、生産諸条件の分配の結果にすぎない。しかし、生産諸条件の分配は、生産様式そのものの一特徴である。

(「ゴータ綱領批判」全集⑲P.19～22)

****

社会主義・共産主義の社会がさらに高度な発展をとげ、搾取や抑圧を知らない世代が多数を占めるようになったとき、原則としていっさいの強制のない、国家権力そのものが不必要になる社会、人間による人間の搾取もなく、抑圧も戦争もない、真に平等で自由な人間関係からなる共同社会への本格的な展望が開かれる。

人類は、こうして、本当の意味で人間的な生存と生活の諸条件をかちとり、人類史の新しい発展段階に足を踏み出すことになる。(日本共産党綱領)

討論　メモ用紙

テーマⅣ　人間解放論　10:40～11:00

〈メモ〉

テーマⅤ　科学的社会主義とは何か　11:40～12:00

〈メモ〉

231119 第９回「高村・宮中塾」～感想文集

11/19 労学協事務所にて第９回「高村・宮中塾」を開催し、10 名(Web 含む)が参加しました。参加者からの感想を紹介します。

学習会に参加しての感想

○科学的社会の人間論を詳しく学習しました。核心の部分。人間解放、ヒューマニズムの理論であることを再確認することができました。

○人間疎外について、近年は「ハウスメント」という言葉ができるなど、目に見えるようになってきた。人間解放の具体的なことが分かりやすくなっていると思う。パワハラ、セクハラ、ジャニーズの性加害、宝塚のパワハラ、医師の過労死、大阪での維新のマスコミ支配を使っての政治の独占。優生保護法、同性婚と別姓、インボイスなどなど、色々なところで、たくさんの人が闘っている。搾取されているだけだと、自分は特にされていない、」と思う人も多いだろうが、社会の中で何かに抑圧されて誰かと一緒に闘って自由を得ようとしている人はたくさんいる。目の前の１つのためのたたかいでも、これは自由と解放に直結していると感じられる。

○ズバリ！の内容。科学的社会主義を学ぶという学習会は多く聞くが、科学的主義そのものを学ぶのはないのではないか。科学的主義をわかっていないのに、学ぶことはできない。科学的社会主義という難しい名前で、それだけで学ぶ気が失せる私にとって、科学的主義そのものを学べるのはありがたい。あらゆる問題を根本からとらえ、根本を変え、解決に導く学問だということがよくわかった。だからこそ、日本共産党はこの学問を基礎理論とし、だからこそ日本共産党はこの学問を学ぶ必要がある。おおもとから変える日本共産党と合致した学習会でした。

○国家を本質と現象の統一として捉えることが大切。河井疑惑をただす会の活動を通じてそのことを実感します。河井夫妻は、有罪にしたが、その上、本丸の安倍、菅などには手をつけない。統一協会問題でも、一番の根本「反共主義」には、目を向けさせない。メディアの位置づけをしっかりつかむことが大切。

疑問に思った点・深めたいと思った点

○「根本」とは本質と捉えていいですか。また、真理として捉えていいですか。

○科学的社会主義とは、あらゆる問題の根本（真理、本質）と捉え、根本を変える解決の道を示す学問と捉えていいですか。

理解できた点・面白いと感じた所

○「眠ってる良心」今回の決議案で出てくる、「自覚を眠り込ませるような状況におかれている」そのものだと。疎外によってこういう状況なんだということがよく分かった。そこに根ざした運動だからこそ連帯した運動になる、その通り。

○その後の回復を噴火とはうまい言い方。

○新聞名とテレビ局の名前が同じなのを不思議と思わず生きてきた。別会社のはずなのに、何の違和感ももたず長く生きてきた。「癒着」の構造をおかしいと思わない人をつくってきたんだと。１億総はくちかがメディアの役割というのは恐ろしいと思う。真実を伝え、社会変革を進める世論を喚起するしんぶん赤旗の役割がここにあると確信。

○国家が未来社会になるとなくなるということがよくわからなかったけど、よくわかった。国家が国民を抑圧し、支配するものが本質にあるということがよくわかった。国家のいう「国民のために」というのは、現象だということ。本質をとらえる日本共産党の考えに納得。

自由記入

○最後の学習会が参加できないので、ＤＶＤにしてほしいです。

広島県労働者学習協議会　新・哲学講座がスタート！

昨年２月に開講した「高村・宮中塾」の第２弾は、ヘーゲル「小論理学」の真髄を、参加者との討議を深めながら学んでいきます。(詳細は「開講にあたっての挨拶」(裏面)をご参照ください)。Zoom ミーティングでの参加も可能です。多数のご参加をお待ちしています。

日　時：　2024 年３月 24 日(日)
毎月第４日曜日に開講　10:00～12:00

場　所：　広島県労働者学習協議会
〒730-0853 広島県広島市中区堺町１丁目２－９
TEL.082-231-6107

受講料：　500 円/回

テキストはヘーゲル「小論理学」(岩波文庫)、「ヘーゲル『小論理学』を読む」(高村よしあつ著・一粒の麦社)の２冊を使用します。「ヘーゲル『小論理学』を読む」をお持ちでない方は、広島県労働者学習協議会でご購入も可能です。

お問合せ・申し込みは下記までお願いします
FAX.082-231-6140　Mail: rougaku1@urban.ne.jp

開講にあたっての挨拶

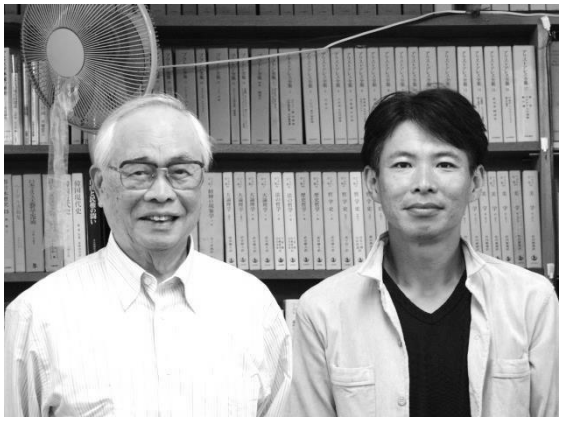
科学的社会主義の学説は、弁証法的唯物論を柱としています。科学的社会主義の創始者であるマルクス、エンゲルスがヘーゲル哲学を学んで弁証法的唯物論を生みだしたことはよく知られていますが、マルクスもそれを著作にしようとしながら時間的余裕がなく、「自分があの偉大な思想家の弟子である」ことを公然と認めるにとどまりました。また、レーニンもヘーゲル「論理学」に学んで『哲学ノート』を作成するにとどまり、著作にまで前進することができませんでした。

こうして、科学的社会主義の弁証法的唯物論を学ぶには、ヘーゲルの「論理学」を学ぶ以外にないのです。マルクス、エンゲルスは、ヘーゲルを観念論者だとしていますが、高村は長年の取り組みの中で、ヘーゲルは観念論者ではなく、「観念論的装いをもった唯物論」と規定すべきとの結論に達しました。どちらが正しいのか、受講生の皆さんが『小論理学』をじっくり学んで結論を出されればいいのではないかと思います。

今回の「高村・宮中塾」は、高村の高齢化のため、最後のヘーゲル「論理学」講座となります。2024 年３月から、毎月１回の全２０回で、「小論理学」の有論、本質論、概念論を学んでいきます。しっかり討論の時間をとりながら、ズーム受講を含む全受講生のみなさんと「双方向・循環型」の講座にしていきたいと考えています。ヘーゲルをつうじて、改めて初心者もベテランも、共に弁証法とは何かを学んでいこうではありませんか。多数の皆さんのご参加を心からお待ち致しております。

高村是懿

講師紹介



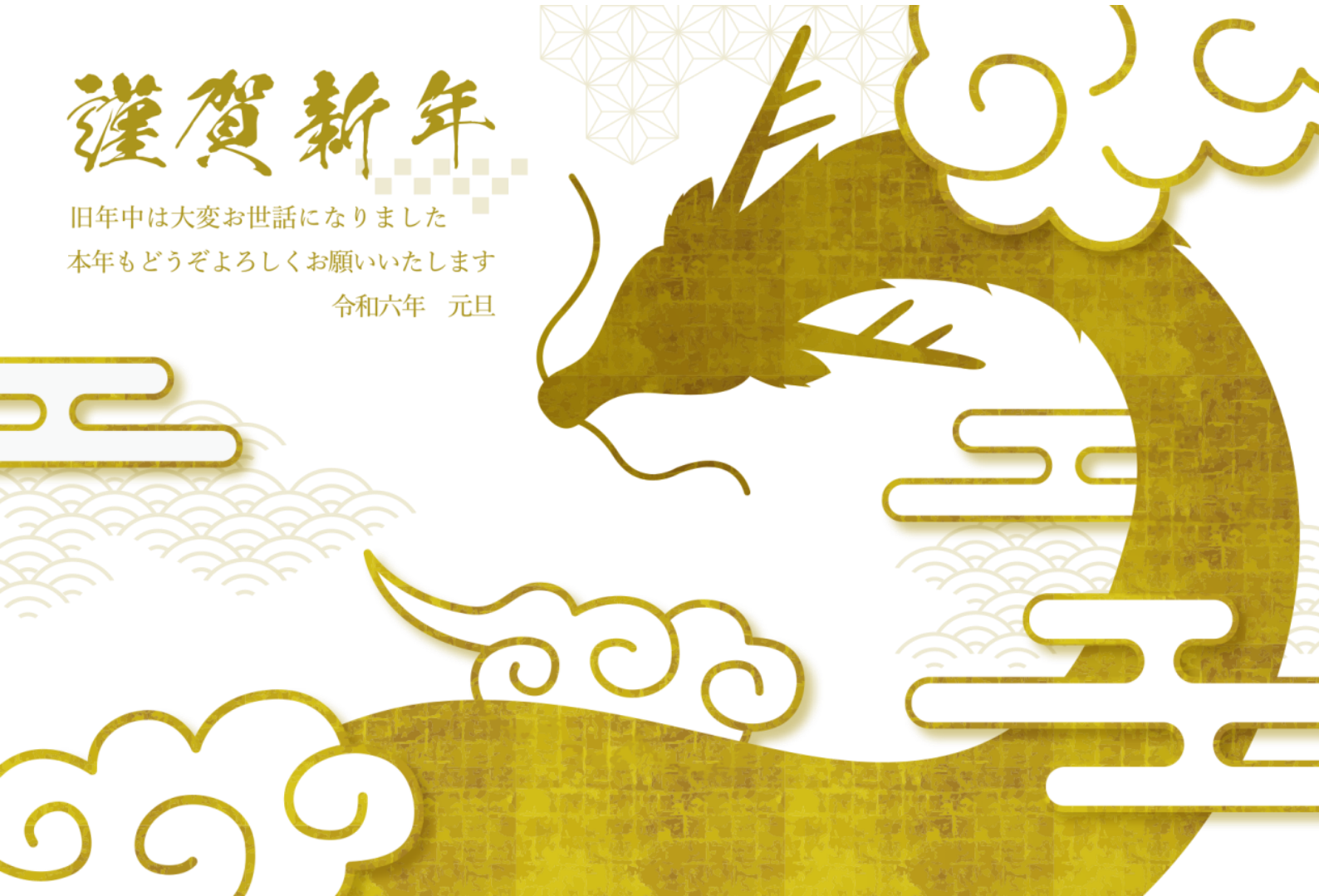
高村是懿（タカムラヨシアツ）・写真左

・広島県労働者学習協議会・元会長
・労学協で 30 年以上にわたって哲学講座を担当。
・「人間解放の哲学」（一粒の麦社）など著書多数。

宮中翔（ミヤナカメグル）・写真右

・40 歳、労働組合の専従
・広島県労働者学習協議会・常任理事
・科学的社会主義を独学で学んでいたが、ネット検索で労学協の存在を知り、「高村塾」（2011 年開講）から参加

来年もよろしくお願いします。
おしまい。
受講していただき
ありがとうございました。


謹賀新年
旧年中は大変お世話になりました
本年もどうぞよろしくお願いいたします
令和六年　元旦